

2024 年度
エコアクション 21
環境経営レポート



株式会社 日 建 運 輸



作成日 2025 年 4 月 21 日

活動期間 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

目 次

I. 組織の概要	1
II. 産業廃棄物処理業の概要	2
III. 対象範囲及び対象期間	3~4
IV. 環境経営方針	5
V. 実施体制	6
VI. 環境経営目標	7
VII. 環境経営計画	8
VIII. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果との評価	9~10
IX. 次年度の環境経営目標及び環境経営目標	11
X. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果	11
XI. 代表者による全体の評価と見直し・指示	11

I.組織の概要

【事業者及び代表者氏名】

株式会社 日 建 運 輸
代表取締役 高 橋 三 郎

【所在地】

本 社 〒959-3121 新潟県村上市佐々木 843 番地 2

リサイクルセンター 〒959-3121 新潟県村上市佐々木字上野 668 番地

【環境管理責任者及び担当者連絡先】

環境管理責任者 高橋 徹
環境事務局 磯 部 由 美 子・岩 本 由 香
連絡先 本社 TEL 0254-62-5408
FAX 0254-62-5688
リサイクルセンター TEL 0254-62-5171
FAX 0254-62-7191

【事業の内容】

一般貨物自動車運送事業
貨物利用運送業
産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物処分業（中間処理）
再生資源リサイクル業
トレーラー先導・誘導業務
敷鉄板・乾式スパッツ リース

【許可の有る事業】

建設業（事業実績なし）

【設立及び資本金】

株式会社 日 建 運 輸
設 立 1985 年 5 月
資本金 3,400 万円

【事業の規模】

従業員 23 名
2024 年度売上高 30,580 万円
事務所床面積 330 m²
工場等床面積 1,230 m²

Ⅱ.【産業廃棄物処理業の概要】

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物 収集運搬業	新潟県許可 01511108508	許可年月日 平成 31 年 1 月 4 日	有効期限 令和 10 年 12 月 17 日	1.事業の範囲（積替え・保管を含む） 汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び磁器くず、がれき類(以上、石綿含有廃棄物を除く。) 廃油、金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。） 動植物残さ（積替え・保管を除く。） 2.積替え保管施設の面積及び種類 汚泥（1.5 m²）廃油（1.5 m²）廃プラスチック類（18.75 m²）紙くず（2 m²）木くず（2 m²）繊維くず（2 m²）金属くず（18.75 m²）ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（18.75 m²）がれき類（18.75 m²） 3.保管上限及び高さ 汚泥（0.4 m³）廃油（0.108 m³）紙くず（2 m³）木くず（2 m³）繊維くず（2 m³）以上屋内、 廃プラスチック類（6.59 m³、0.9m）金属くず（6.59 m³ 0.9m）ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（6.59 m³、0.9m）がれき類（6.59 m³ 0.9m）以上屋外
	秋田県許可 00506108508	許可年月日 令和 4 年 5 月 1 日	有効期限 令和 9 年 4 月 30 日	事業の範囲 廃プラスチック類 金属くず
	山形県 00609108508	許可年月日 令和元年 12 月 2 日	有効期限 令和 11 年 12 月 1 日	事業の範囲 廃プラスチック類 汚泥
産業廃棄物 収集運搬業 (新潟県)	所在地：新潟県村上市佐々木字上野 650 番、662 番 種 類：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。） 汚泥、廃油、金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。）（積替え・保管を含む。） 動植物残さ（積替え・保管を除く。）			
収集運搬車両	脱着装置付コンテナ車 2 台、塵芥車 2 台、バン 4 台、キャブオーバー 6 台 トラクタ 6 台、セミトレーラ 6 台			

産業廃棄物処分業

産業廃棄物 処分業許可 中間処理	新潟県許可 01521108508	破砕処理 : 廃プラスチック類 圧縮処理 : 金属くず 圧縮梱包処理: 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず 溶融処理 : 廃プラスチック類（廃発泡スチロール及び廃発泡ポリエチレンに限る）
	許可年月日 令和 3 年 7 月 8 日	
	有効年月日 令和 8 年 7 月 7 日	破砕溶融造粒処理: 廃プラスチック類（廃発泡スチロール及び廃発泡ポリエチレンに限る。）
破砕処理施設	設置場所 : 新潟県村上市佐々木字上野 662 番、663 番 設置年月日 : 平成 23 年 4 月 1 日 処理能力 : (廃プラスチック) 4.11 t/日 (8 時間)	
圧縮処理施設	設置場所 : 新潟県村上市佐々木字上野 663 番 設置年月日 : 平成 23 年 4 月 1 日 処理能力 : (金属くず) 2.4 t/日 (8 時間)	
溶融処理施設	設置場所 : 新潟県村上市佐々木字上野 662 番、663 番 設置年月日 : 平成 29 年 10 月 10 日 処理能力 : (発砲スチロール、発砲ポリエチレン) 0.4 t/日 (8 時間)	
圧縮梱包処理施設	設置場所 : 新潟県村上市佐々木字上野 658 番 設置年月日 : 平成 27 年 11 月 18 日 処理能力 : (廃プラスチック類)、179.76 t/日 (紙くず) 168.32 t/日 (繊維くず) 109.92 t/日 (金属くず(廃飲料缶及びアルミ廃材に限る。)) 84.56 t/日 (以上 8 時間)	
破砕溶融造粒処理施設	設置場所 : 新潟県村上市佐々木字上野 662 番 設置年月日 : 平成 30 年 2 月 28 日 処理能力 : 0.26 t/日 (廃発泡ポリエチレンシート、廃ポリエチレン気泡緩衝材に限る。)(8 時間)	

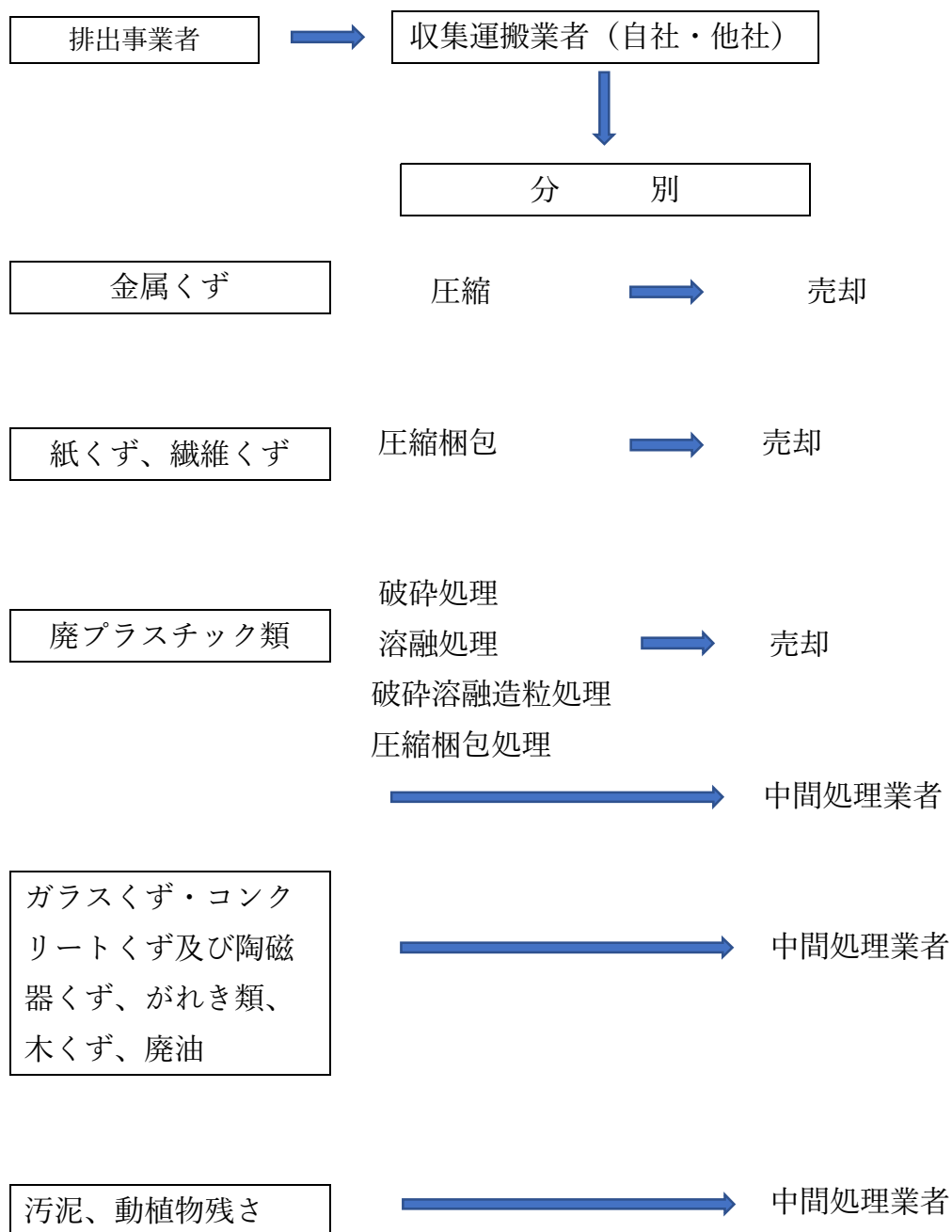
2024 年 4 月～2025 年 3 月処理実績

産業廃棄物収集運搬量 694,645 kg

産業廃棄物処理量 154,798 kg

再生資源の回収・取集量 757,521 kg

産業廃棄物処理工程図



Ⅲ.対象範囲及び対象期間

(1) 認証・登録範囲

全組織・全事業

(2) レポート対象期間及び発行日 レポート表紙の通り

IV.環境経営方針

基本方針

当社では、全事業活動において環境保全・省エネルギー・資源リサイクル等の環境経営を意識した対策を継続して、環境保全に配慮して行動するとともに、社会の発展に貢献します。

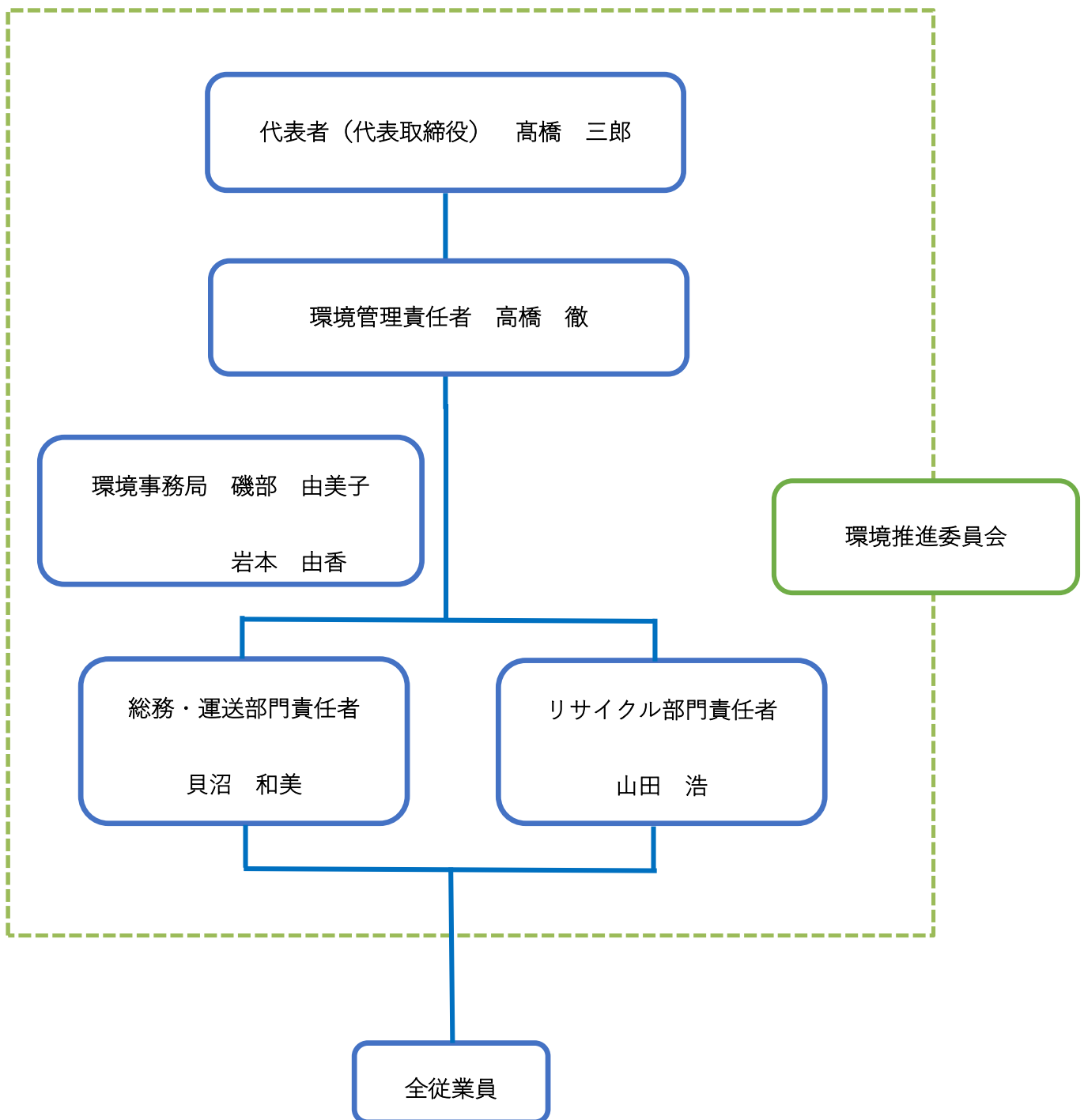
環境経営方針

1. 二酸化炭素排出量を削減するため、資源・エネルギーの効率的活用を実施します。
2. 水使用量の削減、廃棄物の削減に取り組み自然環境の保全に貢献します。
3. 廃棄物の削減及びリサイクルに努めます。
4. 受託した産業廃棄物の再資源化を推進します。
5. エコ安全運転に努め、交通事故の排除と確実な配送を推進します。
6. 事業場周辺の清掃活動を推進し、清潔感ある職場に努めます。

環境関連法規を厳守し、全社員にこの環境経営方針を周知徹底させ、より良い職場を目指します。

制定日 2020 年 10 月 1 日
株式会社 日 建 運 輸
代表取締役社長 高橋 三郎

V.実施体制



VI.環境経営目標

項 目		単位 又は区分 (年間値)	基準年度実績	環境経営目標				
			2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
			取組期間区分	年間	年間	年間	年間	
			2022年4月 ～2023年3月	2023年4月 ～2024年3月	2024年4月 ～2025年3月	2025年4月 ～2026年3月	2026年4月 ～2027年3月	
二酸化炭素排出量の削減	本社電力使用量	kWh	30,508.0	30,355.5	30,202.9	30,050.4	29,897.8	
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	工場電力使用量	kWh	72,025.0	71,664.9	71,304.8	70,944.6	70,584.5	
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	化石燃料使用量	ガソリン 2.32 kg-CO2/ℓ	ℓ	7,448.0	7,410.8	7,373.5	7,336.3	7,299.1
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
		軽油 2.58 kg-CO2/ℓ	ℓ	286,645.7	285,212.44	283,779.21	282,345.98	280,912.76
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
		灯油 2.48 kg-CO2/ℓ	ℓ	4,061.0	4,040.7	4,020.4	4,000.1	3,979.8
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	825,680.8	821,552.4	817,424.0	813,295.6	809,167.2	
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)	kg	33,650.0	33,481.8	33,313.5	33,145.3	32,977.0	
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	受託産廃の再資源化の推進	%	—	—	実態把握	目標設定・目標管理	目標管理	
			対基準年度増減量					
	再資源化量	t	1,003,720.0		—	—	—	
	中間処理量	t	1,098,650.0		—	—	—	
	水使用量の削減	m ³	137.0	136.3	135.6	134.9	134.3	
			対基準年度増減率	△0.5%	△1.0%	△1.5%	△2.0%	
	安全の確保	人身事故件数	0	0	0	0	0	
			対基準年度増減率	無事故	無事故	無事故	無事故	

VII.環境経営計画（2023 年度～2024 年度必要により見直す）

項 目		環境活動の内容	主要な日程	総務・運送 部門責任者	リサイクル 部門責任者
二酸化炭素排出量の削減	エコ安全ドライブの推進	・車両の日常点検・定期点検記録の管理	通年	貝沼和美	山田 浩
		・車両の運転記録の管理	通年		
		・エコ安全運転教育の開催	通年		
		・エコ安全運転の周知徹底（掲示等）	通年		
	エコ安全ドライブの実践	・急発進、急加速、急減速をやめ、適切な車間距離をとる。	通年	貝沼和美	山田 浩
		・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	通年		
		・一定速度・経済速度の走行をする。	通年		
		・不要なアイドリング運転を防止する。	通年		
		・カーエアコンの使用を控える。	通年		
		・渋滞をもたらす迷惑駐車はやめる。	通年		
	適正な車両・運行管理	・タイヤ空気圧を適正に保つ。	通年	貝沼和美	山田 浩
		・不要な荷物は積まない	通年		
		・低公害車・高燃費車の導入を図る。	通年		
		・燃費を把握し、運転計画・車両更新計画に利用する。	通年		
		・渋滞時間帯を避けた運行に努める。	通年		
		・乗り合わせ、走行距離の少ない道順を選定する。	通年		
		・連絡を密にして、重複走行のないように調整する。	通年		
	電力使用量の削減	空調管理の適正化	・暖房時の目標室温(20℃)をこまめに点検する。	磯部由美子 岩本 由香	山田 浩
			・冷房時の目標室温(28℃)をこまめに点検する。		
			・空調フィルターを定期的に清掃する。		
			・使用していないエリアは空調を停止する。		
		照明使用の適正化	・未使用の部屋（トイレ、会議室、休憩室等）は消灯する。	磯部由美子 岩本 由香	山田 浩
			・長期不使用時のパソコン・プリンターは電源を切る。		
			・昼休み、休憩時は消灯する。		
			・残業時は不要箇所を消灯する。		
			・照明器具を定期的に清掃する。		
			・未使用機器はコンセントから抜く。		
		省エネ設備の導入	・O A 機器は省エネタイプを導入する。	磯部由美子	山田 浩
			・デマンド監視装置を設置する。	—	
	化石燃料の削減（灯油）	・暖房時の目標室温(20℃)をこまめに点検する。	暖房期	磯部由美子 岩本 由香	山田 浩
		・不要箇所での暖房を停止する。	暖房期		
		・暖房運転時期を見誤らない。	暖房期		
一般廃棄物排出量の削減		・印刷・コピーは必要枚数とし、無駄がないよう心がける。	通年	磯部由美子 岩本 由香	—
		・会議資料のペーパーレス化、ワンベスト化を推進する。	通年		
		・電子メール等のペーパーレス化を推進する。	通年		
		・書類の電子化に努める。	通年		
		・コピー用紙は両面使用に努める。	通年		
		・縮小印刷・割付印刷に努める。	通年		
		・社内文書等は裏紙使用に努める。	通年		山田 浩
		・紙・びん・缶・PET類は、分別して再資源化に回す。	通年		
		・ごみ置場に分別種類を掲示する。	通年		
		・無駄な商品・資材の購入は控える。	通年		
		・詰め替え製品を使用する。	通年		
受託産廃の再資源化の推進		・分別を徹底し再資源化・有価物化に努める。	通年	—	山田 浩
		・処理施設の維持管理を適切に行い良好な稼働状態を維持する。	通年	—	
		・顧客に、異物除去や分別など再資源化への協力を依頼する。	通年	—	
水使用量の削減		・節水啓発ステッカーを掲示する。	通年	磯部由美子 岩本 由香	山田 浩
		・水道は、こまめに蛇口を止め、出し放しにしない。	通年		
		・水道の水量・水圧は、適正に保つ。	通年		
		・洗車頻度は必要最小限にする。	通年		
その他の取り組み		・職場の整理・整頓・清潔に努める。	通年	磯部由美子 岩本 由香	山田 浩
		・周辺地域の清掃美化活動を行う。	通年		
		・文具類のグリーン購入に努める。	通年		—

VIII.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

(1) 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

項 目			単位 又は区分 (年間値)	基準年実績 2022年度	目標	実績	評価
					対基準年増減率%	対基準年増減率%	対目標増減率%
				2022年4月～ 2023年3月	2024年4月～2025年3月		○:達 成 ×:未達成
二酸化炭素排出量の削減	購入電力	電力(本社)	kWh	30,508.0	30,202.9	22,723.0	○
					△1.0%	△25.5%	
		電力(工場)	kWh	72,025.0	71,304.8	65,410.0	○
					△1.0%	△9.2%	
		電力(合計)	kWh	102,533.0	101,507.7	88,133.0	○
					—	—	
	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ	9,346.11	9,252.65	6,401.02	○
					2.32		
					kg-CO2/ℓ	△1.0%	
		軽油	ℓ	286,645.67	283,779.21	274,862.53	○
					2.58		
					kg-CO2/ℓ	△1.0%	
		灯油	ℓ	4,061.0	4,020.4	4,343.0	×
2.49							
kg-CO2/ℓ					△1.0%	6.9%	
計	二酸化炭素 排出量	kg-CO ₂	818,198.3	818,198.3	775,086.5	○	
				—	—		
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	33,650.0	33,313.5	21,290.0	○
					△1.0%	△36.7%	
受託産廃の再資源化の推進			%	—	実態把握	44.7	—
	再資源化量		kg	—	—	69,208.0	—
	中間処理量		kg	—	—	154,798.0	—
水使用量の削減			m ³	135.0	133.7	134.0	×
					△1.0%	△0.7%	
安全の確保			人身事故件数	0	0	0	○
					事故なし	事故なし	

備考 1. 東北電力の二酸化炭素排出係数は、2020 年度の実績値の調整後排出係数を使用。

東北電力(株)0.457kg-CO₂/kWh

- PRTR 制度対象物質の使用はないため、化学物質使用量の削減に関する環境経営目標は設定していない。
- LPG 含む二酸化炭素総排出量は 775,110.54 k g -CO₂である。

環境経営目標の達成状況についてコメント

電気使用量は大幅に削減されており、取組の成果が出ていると思われる。

灯油の使用量が増えたのは例年にないくらいの大雪により、暖房機器の使用が増えたためと思われる。水道使用量の未達成は思い当たることがないが、これからも節水に努力していく。

(2)環境経営計画の実績・取組結果とその評価

総務・運送部門

リサイクル部門

項目		環境活動の内容	年間評価	0.0	1.0	2.0	3.0	年間評価	0.0	1.0	2.0	3.0
二酸化炭素排出量の削減	エコ安全ドライブの推進	・車両の日常点検・定期点検記録の管理	3.0					3.0				
		・車両の運転記録の管理	3.0					3.0				
		・エコ安全運転教育の開催	3.0					3.0				
		・エコ安全運転の周知徹底（掲示等）	2.8					3.0				
	エコ安全ドライブの実践	・急発進、急加速、急ブレーキをやめ、適切な車間距離をとる	3.0					3.0				
		・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	3.0					2.8				
		・一定速度・経済速度の走行をする。	2.8					2.8				
		・不要なアイドリング運転を防止する。	2.8					2.5				
		・カーエアコンの使用を控える。	2.5					3.0				
	適正な車両・運行管理	・渋滞をもちたらず迷惑駐車はやめる。	3.0					3.0				
		・タイヤ空気圧を適正に保つ。	3.0					3.0				
		・不要な荷物は積まない	3.0					3.0				
		・低公害車・高燃費車の導入を図る。	3.0					3.0				
		・燃費を把握し、運転計画・車両更新計画に利用する。	2.8					2.8				
		・渋滞時間帯を避けた運行に努める。	3.0					3.0				
		・乗り合わせ、走行距離の少ない道順を選定する。	2.8					3.0				
	電力使用量の削減	・連絡を密にして、重複走行のないように調整する。	3.0					2.8				
		空調管理の適正化	・暖房時の目標室温(20℃)をこまめに点検する。	2.8				2.8				
			・冷房時の目標室温(28℃)をこまめに点検する。	2.8				2.5				
			・空調フィルターを定期的に清掃する。	3.0				3.0				
		照明使用の適正化	・使用していないエリアは空調を停止する。	3.0				3.0				
			・未使用の部屋（トイレ、会議室、休憩室等）は消灯する。	3.0				3.0				
			・長期不使用時のパソコン・プリンターは電源を切る。	3.0				3.0				
			・昼休み、休憩時は消灯する。	3.0				3.0				
			・残業時は不要箇所を消灯する。	3.0				3.0				
			・照明器具を定期的に清掃する。	3.0				3.0				
	省エネ設備の導入	・未使用機器はコンセントから抜く。	3.0					3.0				
		・省エネ機器は省エネタイプを導入する。	3.0					3.0				
	化石燃料の削減 (灯油、LPガス)	・デマンド監視装置を設置する。	3.0					3.0				
		・暖房時の目標室温(20℃)をこまめに点検する。	2.5					2.5				
		・不要箇所での暖房を停止する。	2.8					3.0				
		・暖房運転時期を見誤らない。	2.8					3.0				
一般廃棄物排出量の削減		・温水の無駄な出し放しをしない。	3.0					3.0				
		・印刷・コピーは必要枚数とし、無駄がないよう心がける。	3.0					3.0				
		・会議資料のペーパーレス化、ワンペスト化を推進する。	3.0					3.0				
		・電子メール等のペーパーレス化を推進する。	3.0					3.0				
		・書類の電子化に努める。	3.0					3.0				
		・コピー用紙は両面使用に努める。	3.0					3.0				
		・縮小印刷・割付印刷に努める。	3.0					3.0				
		・社内文書等は裏紙使用に努める。	3.0					3.0				
		・紙・びん・缶・PET類は、分別して再資源化に回す。	3.0					3.0				
		・ごみ置場に分別種類を掲示する。	3.0					3.0				
		・無駄な商品・資材の購入は控える。	3.0					3.0				
		・詰め替え製品を使用する。	3.0					3.0				
受託産業の再資源化の推進		・分別を徹底し再資源化・有価物化に努める。						3.0				
		・処理施設の維持管理を適切に行い良好な稼働状態を維持する。						3.0				
		・顧客に、異物除去や分別など再資源化への協力を依頼する。						3.0				
水使用量の削減		・節水啓発ステッカーを掲示する。	3.0					3.0				
		・水道は、こまめに蛇口を止め、出し放しにしない。	3.0					3.0				
		・水道の水量・水圧は、適正に保つ。	3.0					3.0				
		・洗車頻度は必要最小限にする。	3.0					3.0				
その他の取り組み		・職場の整理・整頓・清潔に努める。	3.0					3.0				
		・周辺地域の清掃美化活動を行う。	3.0					3.0				
		・文具類のグリーン購入に努める。	3.0					3.0				

備考 評価基準（3：できた。2：一部できたが更に努力が必要。1：できなかった。）

環境経営計画の実施状況についてコメント

グレー表記、取組年度は使用しなかったため実績なしとする。

まだ取得不十分の部分があるが検討・実施する。

IX. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2025 年度の環境経営目標のうち、受託産廃の再資源化の推進は 2024 年度実績を基準として新たに目標値を設定する。

また、環境経営計画はⅦ.環境経営計画の通りである。

X.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果

No.	環境関連法規名	評価
1	廃棄物処理法	遵守
2	新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	遵守
3	水質汚濁防止法	遵守
4	新潟県生活環境の保全等に関する条例	遵守
5	村上市公害防止条例	遵守
6	下水道法	遵守
7	浄化槽法	遵守
8	自動車リサイクル法	遵守
9	家電リサイクル法	遵守
10	消防法	遵守
11	村上市火災予防条例	遵守
12	道路交通法	遵守
13	道路運送車両法	遵守
14	オフロード法	遵守
15	フロン排出制御法	遵守
16	労働安全衛生法	遵守

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、法規等の違反がないことを確認しました。また、関係当局より違反等の指摘ありませんでした。

更に、外部からの環境に関する苦情等の受付ありませんでした。

XI.代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 全体の評価

大雪により灯油使用量は未達成になってしまった。また、水使用量が目標を超えて未達成になっているので、今後も目標を達成出来るように努力する。

(2) 見直し結果

見直し項目	見直し結果・指示事項	変更の有無
環境経営方針	当社の状況に変化はなく、現在の環境経営方針を維持していく。	無
環境経営目標	有価物及び受託産廃の再資源化を受託産廃の再資源化に変更したことに伴い、2024 年度実績を基準に目標値を設定する。	有
環境経営計画	見直しの結果、変更の必要は認められなと判断するが、環境目標の達成状況を見ながら、必要に応じて追加・修正をする。	無
実施体制	システムとして機能しており、見直しの結果、変更の必要はない。	無
その他	変更の必要な項目は認められなかった。	無